

図7-7 UTM 図法

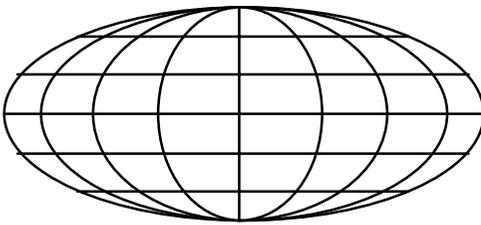


図7-8 モルワイデ図法

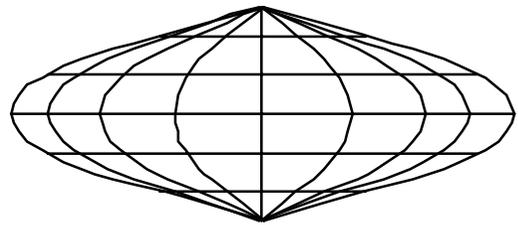


図7-9 サンソン図法

### 7.5 オルソ画像（正射投影画像）

光学センサでは視野内の対象物からの電磁波を1点に集中させて撮像するので、得られる画像は中心投影画像となる。この方式によって撮影された画像では、高さを有する対象物は投影中心から離れた方向へ倒れ込んで撮像される。フィルムのように一瞬に撮像するフレームタイプでは、図7-10(a)のように画像中心から放射状に誤差が表れる。一方、プッシュブルームやウィスクブルーム方式のスキヤナのようなラインタイプでは、(b)のようにプラットフォームの直下点の軌跡に対して両側へ倒れこむように誤差が表れる。この誤差は、起伏が大きいほど、衛星直下から離れるほど大きくなる。このような地形起伏や地物の高さのように地表面の凹凸による誤差を除去した画像をオルソ画像(ortho-image)という。オルソ画像とは、本来下図(c)のように無限遠に投影中心をおいて投影（正射投影）した画像である。